

# 市長と語るまちづくり懇談会 飯地

日時：令和元年7月26日（金）午後7時～8時40分

場所：飯地コミュニティセンター

---

## 自治区協議会長あいさつ

■会長 多数出席いただきありがとうございます。

レジュメでは、懇談会のテーマを「地域計画への理解を深め、まちぐるみでの計画推進に向けて」としており、そういうテーマで進めていきたい。

平成28年度から地域計画を進めて今年で4年目になる。皆さんの努力のおかげで諸課題が少しずつ前進してきているし、成果も少しずつ上がってきていると思う。たとえば、喫緊のことでは人口減少対策の移住定住の取り組みでは大変成果を上げている。空き家バンクにかかわるものは、18世帯、45名ほどの移住があった。5月の会長会議で小坂市長から本当に嬉しいお褒めの言葉をいただいた。飯地町は人口比で換算すると13町の中で移住率が一番だという。皆さんのおかげで成果を上げてきている。また、教育委員会や市役所のおかげで、学童保育を4月1日から小学校を改修して移り、始めた。一番大きなことは、恵那市の配慮で4月1日からテント村をリニューアルオープンし、今まで以上の活況の様相を呈しており、良いスタートが切れている。その成果が出てきていると思う。

平成28年度から進めている地域計画は、今年の前半で地域計画を見直し、後期計画の見直しの期間に当たっている。今日、市長との懇談会で、例年のとおり皆様方からたくさん意見をいただきそれを市長に聴いていただいて、それを市政に反映していただければという趣旨であるが、我々としては、自助、公助、共助という言葉のように、自治区も皆さんも、地域が一丸となって、チーム飯地でこの後5年間を進めていくような懇談会になればと思うのでよろしくをお願いします。

## 市議会議員あいさつ

■市議 台風が来るが大過ないように願っている。和やかなムードでこの懇談会が進行している。

道路関係について。6月に毎年東京に行き関係省庁に要望している。今年も6月17日に新丸山ダム建設対策協議会として出かけてきた。市長、建設部も一緒だった。市長は足が速いのでついていくのがやっとだった。どこへ行っても名前を知っているし、恵那市を大変売り込んでいる。特に飯地町は新丸山ダムの付け替え工事をやっているのでも国交省でもよく分かっているし、たまたま中部地方整備局という国交省の出先にいた人が本庁にみえ

たりして、いろいろな意味で追い風になっている。もちろん瑞浪恵那道路も始まっている。そういう意味で、この地域でインフラに投資していただいているのはありがたいと思う。

恵那市はいろいろなイベントでチャンスが来ている。この近くでは笠置峡のボート・カヌー場、また明智町の「麒麟がくる」のゆかりの地、世界ラリー選手権の候補でもある。日本中の市へ行くが、5万人そこらの市でこんなにイベントのチャンスに恵まれたところは少ない。まちづくりの大きなチャンスだ。よその人を連れて来て巻き込むには本当に大きなチャンスだと思う。テント村の話もあったが、飯地のまちの中でまちおこしをするのも大事だが、少ない人数でやれることは限られているので、よその人を巻き込んで活性化することもこれからどんどん進めていきたい。総合計画の後期の課題にもそういうことは盛り込んでいただきたい。今後も皆さんの意見を参考にしたい。

### 「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」の主要事業について

■市長 飯地町について。人口は平成17年823人、平成30年は619人。世帯は合併当時233世帯、平成30年246世帯。増えている。このまちで生まれた子どもは、平成30年に5人、今は4人。去年は0人で、今は2人引っ越してきたので2人いる。

事業。いいじ里山バス、空白地有償運送。地域の皆様方の御理解と御協力と御努力により運営されていることに心から感謝する。今、飯地はモデル地区としてほかの地区から多くの視察が来ていると思う。こうして汗を流していただいているのは地域の存続のためだと感じる。

笠周地域振興計画。概ね順調に進んでいると思う。飯地のテント村は大変なにぎわいだ。私も開村式、音楽祭にお邪魔した。今年飯地に来る機会が多いと思ったら、キャンプ場に来る機会が多いため、いろいろなところで、「飯地のキャンプ場を見てくれ、こういうことをすれば人が増えるのでほかの地域の皆さんも参考にしてほしい」と言っている。

県道恵那八百津線に関しては地域の皆様に本当に御尽力いただいた。私も皆様と一緒に県に要望し、今年は烏帽子岩あたりの調査にかかっている。私からお願いしたのは、直すところはたくさんあるが、一番ネックになり、怖いところは烏帽子なので検討してほしいとお話ししたところ、県で検討してみるとのこと。交通安全対策も確実に事業として進めていただいている。

新丸山ダムの付け替え国道は着実に今進んでいる。これから徐々に進んでくると思う。私が恐れているのは、恵那の街に来るよりも、八百津、可児、御嵩に行った方が近いという声がすでに聞こえており、これはいかん、何とか恵那の街が時間の近いところにならないといけないと思っている。ただ、逆に言えば、今までなかなか来られなかったお客さんが飯地に来るチャンスだ。レクリエーションで自然豊かなところなので可児や御嵩からは

すばらしい魅力に映るはずなので、ピーアールして多くのお客さんに来ていただき、そのまま恵那に下りていただけるように、そのために飯地の皆さんに汗をかいていただきお客さんをお呼びしていただきたい。

林道。昨年台風のときに倒木がひどかった。待避所を含めて 21 カ所作り、その舗装や草刈りも今年やっている。消防のポンプ自動車は発注済みだが納品は年度末になる。安全と安心のための整備も進めていきたい。

## 意見交換

テーマ「地域計画への理解を深め、まちぐるみでの計画推進に向けて」

### ・飯地町地域計画の説明

■司会 地域計画の概要について説明をする。

■会長 地域計画の概要と成果と課題について説明する。地域計画については地縁団体のときにも説明したが、皆さん一緒になって理解していただいで進めていきたい。

■（パワーポイント上映） 飯地町地域計画について。まちづくり懇談会において飯地町地域計画を説明する目的は 2 つある。1 つめは、飯地町のこれからのまちづくりの指針である地域計画をもう一度町民に説明し、理解を深めたいこと。2 つ目は、本年度が地域計画の見直しの時期に当たっているため、地域の皆さんから多くの意見をいただき、後期 5 年の地域計画を作っていただきたいことだ。

飯地町地域計画は、飯地町のまちづくりの方向や取り組む内容を示した計画だ。計画の期間は平成 28 年度から令和 7 年度までの 10 年間。このまちづくりの計画を皆さんが理解して力を合わせてまちぐるみで計画を推し進めていくことが特に大事だ。

飯地町地域計画ではまちの現状をこのように捉えている。飯地町では人口が 630 人ほどとなって少子高齢化が急激に進んでいる。このまま推移すると 25 年後には人口が半減し、地域の存続が危ぶまれる。また、地域づくりを担う人材も高齢化しており、行事や役の負担が過大になっている。今後飯地町を存続して親、孫の世代に引き継ぐためには急激に進む人口減少に歯止めをかけること、とりわけ若者や子どもの数を増やしていくことが最重要課題となっている。

一番の課題である人口減少と高齢化について。グラフは、日本、恵那市、及び市内各地域の平成 7 年から平成 27 年までの 20 年間の人口の増減を表している。飯地町は恵那市で一番人口が減っていることが分かる。また、過去 20 年間の人口減少率は 34.83%で、平成 7 年から見ると約 3 人に 1 人が減少した。高齢化率が 43%で、上矢作町に次いで高く、急激な高齢化と、まちを維持発展させていく担い手不足が深刻な問題となってきていることが分かる。

飯地町の人口が将来どのように変わっていくか。このグラフは名古屋大学の高野先生が講

演会で示してくれた飯地町の人口推移のシミュレーションだ。これによると、飯地町が現状のままいくと 25 年後には、今の 630 人が 300 人ほどになる。85 年後の 2100 年には 100 人を切り、飯地小学校の在籍者は 10 名を切ると予想される。しかし、毎年子育て世代が 1 家族ずつ移住や U ターン、I ターンで飯地に住めば、将来の人口は 400 名ほどで横ばいとなって人口減少に歯止めがかかり、子どもの数も減っていかない。

このことから、飯地町では人口減少対策と高齢化問題がまちづくりの一番の課題となっている。

この頃、限界集落や消滅集落という言葉をよく聞くようになった。集落の構成人員で 65 歳以上が 50% 以上になると、祭りや助け合いなどの集落機能が失われ、徐々にまちそのものがなくなっていき、消滅集落への可能性が増えていくというものだ。85 年後の飯地は、現在のまま何も手を打たず推移すると人口が 100 人ほどになる結果を示している。私たちは限界集落の入口に立っていることを町民全体でしっかり受け止め、町民の地域計画を進めていくことが大切だ。

飯地町地域計画のキャッチフレーズは、「みんなの想いを重ね合わせて、子どもの声が響くまちへ」だ。これには飯地町の私たち一人一人がまちづくりの飛躍となって、町民ができること少しずつ行うことで、持続可能で小さくても元気なまち飯地町をつくり出していくという願いが込められている。

飯地町地域計画の具体的な施策の指針となる柱が 4 つある。「みんなが住みたくなるまち、住み続けられるまちを目指す移住定住環境の整備」「まちぐるみで“子育て”と“生きがい人生”をサポート」を目指す子育て支援と高齢者ケア」「足元の魅力に磨きをかける飯地まるごと再発見を目指す地域資源の活用と交流の促進」「達成感を感じられる組織体制と自由闊達な気風づくりを目指す組織変革と参画促進」。この 4 つの柱に沿ってまちづくりの具体的な施策が考えられている。

一つ一つ紹介する。

基本施策 1、移住定住環境の整備。移住定住環境の整備と安心・快適なまちづくりの 2 つを重点として施策を決めている。移住定住環境の整備では、今いる若い世代の人たちが、結婚や子どもの誕生などを機に家を飯地町内に建て、住み続けることができるように、宅地や住宅を確保し、情報を発信していく。また、移住者を呼び込むために、空き家の確保や古民家リフォーム塾などを並行して行なっていく。そして、移住者が地域に溶け込めるよう、地域面談や風習、行事の情報提供を行うなど、移住者とまちの人たちが良好な関係を築けるようなサポート態勢をつくっていく。このような受け入れ態勢を充実させ、みんなが住み続けられるまちにすることによって、いったん離れた人たちも帰ってきたくなくなるようなまちになっていくことを狙いとしている。

安心・快適なまちづくりでは、お互いが助け合う防犯、防災体制に取り組んでいく。飯

地町は犯罪や交通事故が少ない安心で安全なまちだといえる。しかし、地震や豪雨などで道路が寸断すれば地域が孤立する恐れもある。各自治会の少ない人数でそれぞれの役割を決め、助け合う防災体制を組織することが必要だ。また、高齢世帯が多く、夜間も人通りが少ないことから、防犯に対する取り組みも必要。さらに、住民が不便と感じている道路など、生活基盤の整備についても積極的に要望していく。

基本施策 2、子育て施策と高齢者ケア。子育てと子どもの成長をサポート、高齢者の生きがいづくりをケア、の 2 つを重点にしている。子育て世代の意見を積極的に取り入れ、子育てが楽しくなるまち飯地町、と内外にピアールできるようなまちを目指す。そのために、町内の人たちが空いている時間や得意分野を生かして、託児や産前産後のサポートをしたり、習い事や勉強を教えるなど、町内でできる子育て・安心サポート態勢をつくっていく。そこに高齢者も活躍してもらうことにより、高齢者の生きがいをつくり出していく。また、ふるさと教育を通じて次世代を担う子どもたちがふるさとを誇りに思えるようにする。高齢者の生きがいづくりとケアでは、高齢者が健康を維持し、生きがいを見つけられるよう、得意分野を生かして活躍できる場を提供していく。また、高齢者が介護状態になるのを防ぐ取り組みを推進するとともに、万が一要介護になった場合も、本人も介護者も安心して生活できるよう、地域密着型の介護施設を要望する。若者が生活基盤を確立して夢や希望をもって人生設計ができる環境づくりや、町外からの人を受け入れる態勢の充実、人材の育成や活用、交流の拠点づくりをして、定住促進、及び少子化対策の取り組みをする。

基本施策 3、地域資源の活用と交流促進。まちの魅力の発見と発信、自立に向けた事業づくり、の 2 つを重点としている。飯地に暮らしている人と町外の人と一緒に、自然、食文化、地歌舞伎などのまちの魅力を再発見し、共に楽しむことでその楽しさがあふれ出るような発信をしていくことを目指す。また、老朽化した施設にみんなで手を入れることにより、魅力的な交流の拠点として再生する。特に、飯地町の自然は大きな魅力の一つだ。その自然とは、人の手が入ってこそ生まれる里山の景観だと考える。それらは田舎暮らしの希望者が求めることの一つであることから、農業や間伐体験など飯地の人活躍できる交流体験イベントを開催し、一緒になって楽しむことでまちへの愛着や誇りを育てる。その体験がきっかけとなって定住者が増え、間伐、耕作放棄地の解消など、農林業の担い手が育っていくような施策の展開を進めていく。行政の財政が苦しくなる中でまちづくりに使える金額にも限度がある。行政に頼らない自立した地域づくりを進めていくためには、まちの自己資金の捻出をする事業展開を進める。また、地元でなりわいが継続できるように、商工会などを中心とした地域通貨などの制度を検討する。

基本施策 4、組織変革と参画促進。組織体制や事業の見直しによる負担軽減と、自由に語れる気風づくりの 2 つを重点にしている。自治会や各種団体の活動については、リーダー

が高齢化していることや、行事や役が多く、負担が大きいという声がある。また、世代間の交流も乏しく、情報の共有が十分でないことが課題。また、消防団の活動や内容について検討する必要がある。そのためには、自治連合会と地域協議会の一本化など、人口規模に見合った組織体制や、事業の選択と集中を進めていく。世代を超えた交流や、自由な意見交換をする場が極めて少ないため、新しい意見や変革を促す意見が見過ごされがちになっている。このことが、若い世代の「押し付けられた」感や無気力感の原因となっている。これを解消するために、世代を超えて自由に意見交換ができる場をつくり、主体的にまちづくりを担う人が育つ気風を作っていく。

地域計画を実施してから4年目を迎える。この地域計画が目指す方向に沿って、まちづくり団体や自治会協議会、各種団体、町民が活動を続けている。4年目を迎えた現在、どのような事業や活動が行われているか、簡単に紹介する。

移住定住環境の整備。空き家調査と家主への交渉、空き家リフォーム塾の開催。沖田地区の宅地を空き家バンクに登録する手続き。平成27年からは機能別消防団を発足して、安心して暮らせる地域づくりを進めている。

子育て支援と高齢者のケアでは、学童保育が平成30年度から開設された。今年から飯地小学校の体育館の一画を改修して、子どもの保育が始まっている。また、平成28年度から介護施設シクラメンが開設され、高齢者や家族の安心・安全に役立っている。公共交通の代替として、また地域住民の足としての里山バス運行も実施し、今に至っている。

地域資源の活用と交流促進。テント村が再整備を終えて4月から新たなテント村としてオープンしている。管理人や支援団体の活躍により、以前にもまして盛況なスタートを切っている。また、まちづくり団体の活動も活発になっている。空き家リフォーム塾や森の恵み活用塾、特産品部会、ひとなる会、歌舞伎保存会など11団体が活動を活発に進めている。ここで詳しく紹介しないが、飯地町のホームページに活動のようすが紹介してある。ぜひご覧ください。

組織変革と参画促進。自治連合会と地域協議会の組織の一本化や自治会の再編成として6自治会を3つの区に再編成することや、旧来の賦課金制度を改めて新しい賦課金制度を実施している。最初に説明したが、今後飯地町の人口が減っていく中で、将来を見据えた変革をさらに推し進めていくことが重要だと考えている。

飯地町地域計画に沿った事業や活動の概略を説明した。詳しくは飯地町のホームページに各団体の活動などが載っている。天空のふるさと飯地町で検索してご覧ください。

飯地町地域計画は平成28年度の実施から今年で4年目を迎える。今年には恵那市総合計画ならびに飯地町地域計画を見直して、後半5年間の後期計画を作っていく。見直しに当たっては、飯地町の各種団体やまちづくり団体、飯地町の皆さんから多くの意見をいただいて作っていききたい。まず町民からまちづくりに対するアンケート調査をした。飯地町のま

ちづくりの今後について、生活の困りごとや夢など、多くの意見を寄せてください。

以上、平成 28 年度から始まってきている飯地町地域計画の説明をした。飯地町の地域計画はみんなの思いを集めて作られ、みんなの力を寄せ集めて前進させる計画だ。一人一人ができることから始めて、元気で活力のある飯地町を作っていきましょう。地域計画の見直し時期である今年のを機会を捉えて、みんなで思いや知恵を出し合いながらふるさとの飯地町をさらに高みに育てていく後期計画を作り上げていきましょう。

#### ・飯地町地域計画の基本施策に関連して意見交換

■司会 皆さんの思いを集めて作られ、皆さんの力を集めて前進させる地域計画というところで最後のページにつづられていた説明をした。

地域計画の 4 つの基本の柱があるのでその活動を行う団体や個人から、提案、意見をいただく。4 名から発言いただき、その後、会長から町の取り組みについて発言していただく。

まず市民 1 さんから。平成 28 年に愛知県一宮市から空き家バンクを利用して飯地町に移住して、その後飯地町で結婚し現在は 1 児の父親だ。

■市民 1 飯地町に移住して 3 年目になる。移住したいと思ってから移住できるまで半年ぐらいかかった。その間、空き家バンクも調べ、住むところを探していたが、なかなか賃貸がなかった。買うとなると、ずっとそこに住み続けなければならないというプレッシャーで、一歩が大きな感じなので、まず一度住んでみてどんなところが知りたかったので、借家を探した。探している間も恵那に住みたいという人が何人かいて、なかなか見つからず諦める人も多かった。諦めた人も、賃貸がいいけど買ってもらうという物件が多くて諦めていた。

住んでみて、大家さんや地域の人としゃべっていく中で、貸す方も一歩ハードルがあって、貸した以上は責任があって、たとえば住んだ人が変な人で近所に迷惑をかけたらかいことだった。

提案。行政で古民家や空き家を買って、移住者向けに賃貸でやるというのは難しいのか。あと、移住するに当たって、空き家の片付け、ごみが結構あつたりするのでその費用。今は地域の人がボランティアで動いているが、持ち出しもあつたり、軽トラの燃料代とか処分費もかかってくる。そういうところで行政としてのサポートがあるとありがたい。

■司会 続いて、子育て支援の方から市民 2 さん。市民 2 さんは、若者・子育て世代・移住者の交流サークル、いいじひとなる会の代表で、2 児の母親。

■市民 2 いいじひとなる会の取り組み。いいじひとなる会は、若者・子育て世代のサークルとして 5 年ほど前に発足し、飯地町がまちづくり団体として交流イベントや子どもの

一時預かりなどを行なっている。活動の効果として、若者・子育て世代の連帯感が生まれた、移住希望の人がイベント参加をきっかけに、雰囲気を見て移住してくれたこと、一時預かりに関しては件数は少ないが利用してくれている母親の安心材料になっている。

特に最近一番印象的だったことは、飯地高原ほたるフェスティバルという町内外から参加できるイベントを数年前から開催しており、4年前から参加し続けている子どもたちが高校生になり、自分たちからカフェを開きたいと言って、店のスタッフとして積極的に参加して一人前に店を出してくれたことだ。たくさん店があったが一番若々しいので目を引いていた。今まで子どもたちとかかわってきたこともあり、人材育成につながっているのかなと思う。

また、飯地町出身の人がパン屋さんで来てくれたりかばん屋の出展をしてくれたり、近隣の飯地町出身の人が遊びに来てくれたり、何かまちを盛り上げるお手伝いがしたいと、積極的にかかわってくれた。

このようなイベント参加を通じて、少しずつ関係人口の創出もできてきたと感じた。初めてほたるフェスティバルに来てくれた町外の人から、高校生から若い世代の親、お年寄りが同じ場所に立って前のめりになってまちを盛り上げていることを知って、「飯地町がこんなことになっていてびっくりしました」という声もいただいた。

そして、飯地町は4月に飯地高原自然テント村がリニューアルオープンした。夏休み中もたくさんの予約をいただき、1日100人来る日もあると聞く。今後若い人たちがテント村で店を開き、なりわいの的なことができるようにつながっていき、飯地町を盛り上げていきたい。

課題として、次の世代への引き継ぎと人材育成。飯地のような小さいまちだと、まちづくりでの一人一人の力の影響力がとても大きい。今後もまちを動かすような若い人材のポジションの確保がとても重要になってくる。ひとなる会はボランティアのまちづくり団体で、限りもあるので、仕事としてのまちづくり推進員などの継続など、若い人が仕事として地域づくりにかかわり新しいアイデアがどんどん生まれて循環していくような環境づくりのお手伝いもしていただきたい。

■司会 続いて、地域資源の活用と交流促進の分野から、市民3さんに発言いただく。平成30年に名古屋から飯地町に移住し、この4月に再整備により完成した飯地高原自然テント村の管理人を奥様とともに引き受けてくれている。

■市民3 去年から移住してきて管理人をしている。本年度はより多くのお客様にテント村に足を運んでもらっている。テント村に来てそのまま帰る人がほとんどだ。飯地町内の魅力のある五毛座や民俗資料館、市政（いちまさ）など、見学施設の人的・施設的な整備、秋葉山の登山道、大沢川、マレットゴルフ場などの自然を体験してもらえるような場所の



整備も行い、来場者を誘導してテント村に来たお客さんが飯地町での滞在時間を長くすることができればと考えている。実際の問い合わせにも、何か見学や体験のできる場所はないかというのも多数ある。ただ、現状ではテント村と他の地域とのコミュニケーション不足の部分もあるが、各団体も、人的や施設部分で難しい部分もあり、なかなか誘導ができてない。今活気の戻りつつあるこのテント村と連携して、補助金に頼らず個々でなりわいとしてそれぞれお金の得る仕組みを作っていくことがこれから大事になる。それにテント村のコンセプトである、600人の笑顔がつくるキャンプ場、ここが原点にある。それぞれ町民も一緒になって飯地町が盛り上がる形を作っていけたらと思う。

最近では少しずつだが、近所の方々が、テント村でお客さんにあげてくれという感じで野菜を持ってきてくれる。それも田舎の野菜として販売していこうといことで、お互いに協力し合い、徐々になりわいとしても、小さな形だが作っていき、そうするとお客さんとまちの人とのふれあいができる。お客さんと町民との会話が少しずつ増えてきたことは大変嬉しい。が、さらにそれぞれ町民の皆さんも一緒になって飯地町を盛り上げていけるように、市の方からも支援をお願いしたい。

別の話だが、テント村周辺や、飯地町内で、携帯電話の電波が著しく悪いところがある。ソフトバンクやドコモに個人的に電波改善の申し込みをしているが、個人の要望ということでなかなか力が及ばないので、飯地自治区協議会も含め、恵那市からも電波の改善の要望のお手伝いをしていただきたい。テント村のお客さんも、携帯が繋がらないと平日には来られないとか、町内でも電波のいいところはないかという問い合わせも多数いただいている。協力いただきたい。

■司会 続いて、地域資源の活用と交流促進の分野から、市民4さん。飯地五毛座歌舞伎保存会長として、地歌舞伎の保存伝承に努めておられる。団体としてはその活動が評価され、昨年度は岐阜県伝統文化継承功績者表彰を受けられた。

■市民4 昨年表彰を岐阜県教育委員会から受けた。ありがとうございました。また、市から歌舞伎を2年に1回やるたびに、中野方町、笠置町、飯地町と3町合同の伝統芸能祭ということで補助金をいただいている。ありがたいが、カットされて2回目は減ってしまった。もう少し考えていただきたい。

歌舞伎保存会として2年に1回笠置3町の合同の公演をやっている。このことで、飯地町内の人に御祝儀をいただいた。ありがとうございます。それも補助金と合わせてやっている。歌舞伎をやると1幕30万が相場で、3幕やれば90万。それプラスいろいろな案内や経費がかかる。

子ども歌舞伎を敬老会でやっている。これは違う補助金を申請している。子どもは今年14人出てくる。松本団升師匠に習っており、それも1幕30万。それを保存会で、予算がな

いので何とかまけてもらえないかと聞いたが、それならやめてくださいとはっきり言われた。ほかに市から補助金がないか。ぜひ出していただきたい。補助金の制度が分からないので、そういうのも行政や振興事務所から教えていただきたい。十六銀行やJAの補助金もあるようなので申請したい。恵那市では歌舞伎保存会があるが、市川恵美子さんの派と松本団升さんの派があり、松本派は、ほかの地域の保存会でも金銭的にすごく苦しいそうなので、恵那市がどう考えていくか。

また、岐阜県は来年のオリンピックに向けて、来年4月から岐阜県中の歌舞伎を上演していく。今は歌舞伎をそれだけ大事にしてくれるが、これからどう県は考えていって補助金をくれるとかそういうことも心配である。去年の県の補助金は大変少ないものだった。とてもやっていけないような金額で、稽古代も出ないような状態だ。その辺もいろいろ考えていただきたい。

子どもたちも毎年敬老会で歌舞伎をやってくれて、師匠に習っているが、飯地の子どもは大変行儀が良く、しつけがいいし、早く覚えてくれるとほめてもらっている。これは大変ありがたいことなので、これから続けていきたい。そういうことも考えながら、恵那市でもいろいろ考えていただきたい。

■司会 追加で発言があれば挙手してほしい。

ないようなので、この4人の意見を踏まえ、会長から回答をする。

■会長 皆さん方の提案をきちんと考えておかないといけないと思っている。

市民1さんの提案。賃貸物件を増やすことが移住では大事。また、ごみの片付けの補助をという話。今日3時ぐらいからこの下の家の人がみえていたので、この空き家貸してということ話を話していた。そこで出るのは、賃貸では困る、土地も含めて全部手放したいということ。空き家交渉のマッチングは難しいと思っている。賃貸でどういうメリットがあるか、交渉の中で進めていかないといけないと思った。

それと、町で手配するという部分で頑張らないといけないのは、田舎でお試しの住宅のようなものは、飯地町の中で1、2軒整備しておいて、田舎暮らしに慣れてもらうことを配慮していくのが大事だと思う。

ごみの片付けの補助。空き家物件の写真に片付けの悪いものが載ってしまうと断る人がたくさんある。今日、ごみがあるので困るという部分で話をさせてもらう。ぜひこの辺は、市長に市全体で制度を作っていただくということを要望したいと思う。

平井さん、ありがとうございました。まちを動かす若い人のポジションを確保してほしいと。特にまちづくり推進員。まちづくり推進員が町の事業をたくさん仕掛けてくれ、そのおかげでまちづくりの機運が沸き起こってくる、一つのキーの人材になっていることは確かなので、まちづくり推進員の要望についても、ぜひ継続してくれるよう市長に御理解

いただきたい。

まちづくりは、ボランティアばかりだが、そういう人、なりわいがたつ人を増やしていないといけないと思う。後から話す小さな拠点という部分でも、かかわってくれる人が、小さななりわいをとっていけるという仕組みは頑張っていないといけないと思う。

テント村の市民3さんの提案で、携帯の基地局、飯地町の魅力に触れる仕組みを作り出したいというのがあった。テント村は後期計画の中で自立して頑張ってもらいたいということで、運営委員会の委員長や委員を中心に、重点として取り組んでいくということ話を話しているので、テント村の活動については重点的に支援していきたいと思っている。今サポーターのむらびと会議というのができており、その部分で活躍してくれているので、本当に飯地町の体験そのものが結びついた部分で、ぜひ、商品というかそういうものができるといいと思う。それについても自治区は一生懸命支援していきたい。

携帯の基地局については勉強したいと思う。自治区が出て行ってドコモか何かに頼みたいと思うし、恵那市にも助言いただけるかどうかは別にして、携帯が通じないという田舎くさいのは解消したい。

市民4さん、補助金がほしいというのは重々分かっておりますし、先般も、団升さんから「飯地ってもっと金がないの?」と言われた。賦課金を整理してもらい、なかなか事業に補助ができない。それでも大事な地域資源の一つだと思うので、資金面では、公演をお金が取れるようにするという工夫はしていないといけないと思う。資金を少しでも手助けするようなことをしていないといけない。それを自治区と一緒に作り出していく。

去年も話したが、お願いしたいことがある。後期の計画の目玉の一つに、小さな拠点の整備をしていきたい。皆さんに御支援いただきたい。今、小さな拠点というのは、みんなが出しているイメージは、たとえば商店やガソリンスタンド、道の駅の機能、サロン、そういう形の機能を集めたものだ。そういう施設を作っていくということと、それをきちんと運営していく会社組織やNPOの組織を生み出しながら課題を解決していきたい。これから人口が減ってくると、一番大事なのは、買い物ができることと医者があることと学校があること、飯地のあたりから地域の辺にある程度どんな人でも行ける交通インフラがあることが、生活のいつまでも絶対大事な持続可能な飯地を作っていくことだと思う。基本インフラというのは、民業では撤退の連続だ。それをぜひ、半公（おおやけ）で持ちこたえていくのが大事だと思う。皆さんに協力していただきながら何とか立ち上げていきたい。

小坂市長さん、地域計画の説明をした。皆さんの発言を聴いて、協力をお願いしたい。

■市長 飯地町の地域計画を、プレゼンテーションで見せていただいたが、副市長と、「すごいね」と話した。完璧と言っては申し訳ないが、これだけよく練られて考えられている

計画もない。大変すばらしい。実現に向けてというのはハードルが高いだろうし、誰がやるのという話になるだろうが、こうした計画をもって臨まれているのはすばらしいし、驚いた。いくつかコメントする。市民1さんからの提案。後ほど服部部長から説明する。今話は進んでいる。歌舞伎の件は副市長から説明する。

市民2さんと市民3さんからの話。この間、参議院の選挙があり事務所に応援に行った。そのときに前の幹事長がおっしゃったことで面白かったのは、今までふるさと活性化協力隊のような制度があっただけでやってきたが、あまり根付かなかつたのではないかと、3年経って放り出されてもなかなか地域に根付く人がいなかった。新しいことを考えていて、秋の臨時国会において超党派で法案を通す予定なのでぜひそれを考えてほしいと言われた。その後調べてみると、地域活性化のための事業組合を作りたいということだ。組合で、これは人材派遣を伴う組合で、協力隊のようにまちづくりにかかわる人もいるし、店がないので店をやる人とか、農業の担い手がないので農業をやる人とか、そういった地域の課題解決とか地域の存続が可能になるための母体を作って、それを政府は支援して、そこに協力隊のように都会から来る人たちを入れて、そこで活躍してもらおう。こうすると、社会保障や年金の問題もその中で解決できるし、地域の皆さんとの親和性も高くなるのではないかと。こういう話があった。

これは先ほど会長が、小さな拠点づくりの中のNPOや会社という話にもつながるだろうし、キャンプ場を含めた、飯地町全体のなりわいづくりとか拠点づくりみたいなものにもつながるような気がしたし、まちづくり推進員の新たな形と捉えることができると思う。どのくらいまで具体化するかはまだ分からないし、秋の臨時国会を見ながら、議員提案なので、国の総務省が旗を振ってやっているのとは違う。どのくらいまで実現できるかは未知数だが、少し注意深く見ていくことが大事かと思うし、私どもは情報をきちんと集めて、必要に応じて振興事務所経由で皆様に届くようにしたい。

■まちづくり企画部長 賃貸制度については、やはりほかのところからも、いきなり不動産を取得して住むというのはハードルが高いという声を聞いている。現在そういう制度はないのでこれから検討していきたいと思っている。その制度を作る前に、体験していただくというところから入っていこうと考えている。

家財道具の処分。空き家の改修補助金を100万から150万に増額するというのは10月1日から行う予定で、それに絡めて、詳細部分を検討している。まもなくしっかりした答えができると思う。その中で、やはり家財道具の処分、空き家がうまく回転していない要因で、登記が今の人になっていないという問題があり、そこも費用負担をという話があるので、今は先ほどの空き家の改修100万を上限150万に引き上げる外枠で家財道具の処分と登記にかかる費用は上乗せして補助の対象にする。もう少ししたら正確に金額が発表できる。

■副市長 今日聴かせていただき、特に地域計画については課題をしっかりと捉えてみえ、そのため計画をうまく作られているし、特に 4 月から着実に推進されている部分があり、大変期待できる部分があるので、ぜひよろしくお願いします。

高校生の話。よその会議でも、この場に高校生が来ていたりして目新しく感じている。そのとき言われたのが、発言の人が「もっとボランティアに出てくれ」と言ったら、高校生が「いえいえ、私たちには全然アプローチがかかっていない」と言った。高校生が地域づくりを勉強しているし、モチベーションが高い子がいるので、ぜひそんな子たちをキーにして巻き込んでいただくと、高校生が中学生に言ったりして全体が膨らむ場合があるので、ぜひそんなことを。これは明智、山岡の地域で同じような話が出た。

歌舞伎について。私が毎年これだけ切れとやっているの、そこがもろに効いてきた。ちょっと方向を正さないといけない。小さなお金でも地域にとって非常に影響があることがあるので、もう少し考えたい。また、市だけではなく十六銀行さん、東濃信用金庫さんなどいろいろな団体が、補助金や地域振興費を持っているので、そんなニュースもきっと伝わってないので、一度私からも、補助金の申請の仕方などアドバイスさせていただく。

携帯の話は地域で話しても進まないの、私の方で現状も捉えて要望する。

■司会 意見交換はここで閉じる。

自由意見を発言いただく。

■市民5 迂回道路の開設を要望する。国道 418 号の改良工事に伴い、現在県道 412 号線の改良工事が進められている。工事が行われている五明地区では、幅員も狭く一方通行で車両 1 台通るのがやっとだ。ここは通学路で、小学生が通行するにも大変危険だ。また、この先、付近の道路改良工事に伴い数年間の通行止めになると聞いている。すると、南西山地区の住民は迂回路として入野を通ることとなる。これはかなりの回り道になるので、長期間の通行止めは大変不便になる。以前から南西山地区から飯地中心部への最短距離として裏洞線が計画されていたが、県道改良工事は通行止めしないということで未施工になっていた。ぜひこの道路を開設していただき、円滑な通行ができるように要望する。

■司会 会長から答える。

■会長 副会長から答えていただく。

■協議会副会長 裏洞の私どもの会社のところからマルト建設さんに抜ける道が、砂防堰堤を造っていただくときに、この工事はやっていただきたいと、一番をお願いしていた市道だ。今後新丸の工事で、橋が架かるときに約 2m のかさ上げが行なわれる。そのときに 1 年ぐらひは完全にあの区間は通行止めになるのではないかと。というのは、今の本道は幅広くできるが、こちらに迂回していく道路は軟弱地盤で、17m ぐらひ土のところがあって、それが滑りを起こすのではないかとということで、大変難しい工事になるということも懸念

している。昔は、未整地のところで通行を開放していたが、現在は舗装までしてしか開放できないという感じだ。林道でもいいので、昼夜通行止めになるので何とか援助いただきたい。

■市長 副会長が 2 人とも本職なので私には太刀打ちできないが、専門家を含めてどういう形が一番いいかを検討させてほしい。建設担当に来させて、どんな形で子どもたちの安全が確保できるか考える。

■市民 6 これまで 5 年間いいじひとなる会、リフォーム塾、空き家、移住関係、定住部会、飯地の自治区協議会などでやってきた。移住関係や子ども関係のことに携わってきた。この 4、5 年で、飯地町は移住が 24 世帯、53 名ぐらいが移住してきた。Uターンも含んでいる。これはすごいことだと思う。市営住宅は今 3 つ埋まっている。飯地町に人口を増やすには住むところを作らないと人は来ないことと、若い世代、子どものいる家庭を呼んでこないといけない。そこには小学校が必要だと思う。民間として、うちの会社でも、まちの方から頼まれ、定住部会からも沖田の住宅地に 1 棟建ててくれと頼まれて、15 世帯、約 3 億円以上かけて住宅とアパートを造ってきた。しかも、飯地町なので家賃を安くしないと人が来ないので、市営住宅並みの家賃にしてくれとまちから頼まれ、3、4 万で 2LDK の新築に入れる、豪華設備のところがある。そこも 15 世帯のうち 14 世帯埋まってしまって、31 人が住んでいる。これ以上、飯地町には住むところがなくなってしまった。うちもそんなに造れない。

ただ、造れば住む人が来るというのもこの 5 年間で分かった。恵那市は今、恵南と合併したとき 5 万 6 千人ぐらいだったと思うが、十何年経って現在 5 万人を切っていると思う。移住で人を呼ぶには住むところを造る。今正家に住宅地を造っているが。

お願いしたいのは、若者世代が住めるような市営住宅を、沖田の方に土地が空いているので、市で造ってほしい。飯地町に人口が増えるということは恵那市に人口が増えるということになる。こんな飯地町にと町民は思っていたが。

あとは小学校の存続。小学校の生徒数は 20 人ちょっとだ。それでも子どもたちは、飯地小学校があるから、若い人がここに住める。私は不動産をやっているから分かるが、子どものいる世代が、土地を探るとき、住むところを探るときに、学校があることが重要なので、その学校の存続もお願いしたい。

■司会 会長から回答を。

■会長 意見を聴き、住む場所というのは提案のとおりで大事だと思うので、今後の公営住宅の増設も手立てとして皆さんと一緒に検討していきたい。

小学校の存続。できる限り存続することが大事だが、子どものためにどういう形が幸せか、意見を聴きながらいきたい。私の経験では、毛呂窪は 1 人の小学校になったとき、これは北小に行きたいという保護者の話を聞いて、地域が学校の閉鎖を決断した。保護者、

子どもの声を中心に判断していかないといけない。やめるということではなく、ぜひ存続するように頑張っていきたい。

■市長 学校の件は会長が専門家だ。2年前にも同じような話があった。私としてはすぐに統合ということは考えていない。コミュニティーの基本なので、できればここでやらせていただきたい。ただし、地域の皆様がどうしてもここだけでは足りないということになれば、そのときに考える。

市営住宅はすでに3棟市で造り、去年は基準を緩和して、すべて埋まった。引き続きという要望だが、この件は飯地町の皆さんでまず検討いただき、市としては民間でスピード感をもってやっていただくのがいいということで、いろいろな規制緩和や制度改正をしているが、要望があれば地域でもんだ上で声を出していただきたい。

■司会 時間が来ている。意見があればアンケートに記入して帰りに箱に入れてほしい。また後日振興事務所に提出していただいてもいい。

#### 市長お礼のあいさつ

■市長 本日は、多くの皆さんから御意見をいただいたことが喜びだ。活発な意見、議論をいただいたことに感謝する。いただいた意見は持ち帰り、担当に報告し、できることはすぐに、時間のかかるものは検討し、少しでも動かしていく。ほかに意見があれば振興事務所長でも課長でもどういう形でもいいので声を届けてほしい。

#### 閉会

■会長 また御支援お願いします。今後もよろしくお願いします。

[ 閉 会 ]